

経穴委員会

第3回TFTミーティング報告

The 3rd TFT meeting on development of international standard acupuncture points locations

第二次日本経穴委員会
かたしゅういち しのはらしょうじ
形井秀一、篠原昭二

はじめに

標記会議が、韓国のテジョン(大田)にある国立韓医学研究所(KIOM)で6月27日から29日まで開催された。その概要については、先月号で「経穴委員会便り」として報告したとおりである。そこで、委員会便りでは報告していなかった各経穴の部位区分、取穴位置の表記法、将来プランについて報告する。

TFTでの作業

TFTミーティングにおける作業は、これまで6回開催された正式な非公式諮問会議とは異なるTask Force Teamミーティング(特別委員会)であり、調整作業を中心とした作業が行われる。全経穴の位置については本年3月に東京大学で開催された第6回経穴部位標準化非公式諮問会議において、合意形成が行われた。しかし、種々の未調整の問題が残されていたため、今回の会議が開かれることになった。今回行われた作業は下記の通りである。

1. 中国語で記述された公式決議案の確認作業
2. 英文表記の確認作業
3. 経穴部位の図表作成方法
4. 将来計画
5. その他

まず長時間をかけて、中国語で書かれた最も

重要な公式決定である経穴部位の記述内容の確認作業を行った。委員会便りでも報告したとおり、エクセルファイルで修正作業をするうちに、決定事項と異なった表現が紛れ込んでいたり、文字化けの問題があったり、中国側が確認作業を行った際により適切な表現にするために、書き換えた項目があったり、種々の困難を伴いながらも、参加国での確認作業は無事終了した。この資料については、資料が膨大であるために、今後ホームページ(<http://point.umin.jp/>)等を通して公にされる予定である。

なお、TFTで大きな作業を要したのは、統一した部位区分の追加・確認作業であった。

経穴の部位区分の決定

経穴部位を明らかにするために、まず大まかな部位を最初に記述するべきだという意見は、3カ国で容易に合意された。しかし、国際解剖学用語(IAT)に従ってどのような部位区分にするかというのは、非常に困難であった。結局、夜8時から11時過ぎまでの作業を継続して、やっと完成した。以下に、その部位区分を紹介する。

【経穴位置を記述するための人体の部位区分 - TFTの提案 -】

頭部

●頭部：眼窩上縁、頬骨弓上縁、外耳道の上縁、

乳様突起先端、頸部の上縁、外後頭隆起を結ぶラインから上とする。

- 顔面部：顔面部の境界については特に議論されなかったが、頭部の境界を考慮して、眼窩の上縁、頬骨弓の上の境界、外耳道の上縁、乳様突起の先端、下顎の下縁を結ぶラインと考えられる。

頸部

- 前頸部：上縁は頭部と顔面部の境界線、下縁は鎖骨、後縁は僧帽筋の前縁。
- 後頸部：上縁は頭部の境界線、下縁は第7頸椎棘突起と肩峰を結ぶ線、前縁は僧帽筋の前縁。

背部

- 上背部：上縁は第7頸椎棘突起と肩峰を結ぶ線、外側は後腋窩線を通る垂線、下縁は第12胸椎棘突起と12肋骨を結ぶカーブ。
・肩甲部：肩甲骨の部分をさす。明確な体表解剖学用語とはいえないが、兎径部、陰部等とともに使用することとした。

※肩甲部に位置する経穴は、天宗、秉風、曲垣、天髎である。

- 腰部：上縁は第12胸椎棘突起と12肋骨を結ぶカーブ、外縁は後腋窩線を通る垂線、下縁は第5腰椎棘突起と仙骨上縁を横切る線。
- 仙骨部：上縁は第5腰椎棘突起と仙骨上縁を横切る線、外側縁は仙骨の外側縁、下縁は尾骨である。

胸部

- 前胸部：上縁は鎖骨、下縁は胸骨と剣状突起の結合部、季肋部、肋骨下縁を結ぶ線、外縁は前腋窩線。
- 側胸部（胸外側部）：上縁は前腋窩線と後腋窩線を横切る線、下縁は肋骨の下縁、前縁は前腋窩線の終点を通過する垂線、後縁は後腋窩線の終点を通過する垂線。

腹部

- 上腹部：上縁は胸骨と剣状突起の結合部、季肋部、肋骨下縁を結ぶ線、下縁は臍を通過する水平線、外側縁は前腋窩線。
- 下腹部：上縁は臍の高さ、下縁は恥骨の上縁、外側縁は兎径部、前腋窩線。
- 側腹部：上縁は肋骨の下縁、下縁は腸骨上縁、前縁は前腋窩線、後縁は後腋窩線。

兎径部

※部位は明確に示されなかったが、下腹部と大腿部の間をさす。

※気衝、衝門、急脈が位置する。

上肢

- 肩上部：肩峰と鎖骨外端で構成される部分をさす。

※肩髃、巨骨、肩貞、臑兪、肩髃が位置する。

- 腋窩：前腋窩線と後腋窩線ではさまれた腋窩部をさす。

※極泉のみが該当する。

- 上腕：前面、後面、内側面、外側面に分ける。

- 肘：関節部の領域のみをさす。前面、後面、内側、外側に分ける。

- 前腕：前面、後面、内側、外側に分ける。

※部位と経絡の区分は、肺経：前外側、大腸経：後外側、心包経：前面、三焦経：後面、小腸経：後内側、心経：前内側とする。

- 手：手背、手掌

・手関節：関節部の領域のみをさす。前面、後面、内側、外側に分ける。

・手指

下肢

- 殿部

※明確な部位区分は示されなかったが、仙骨、下腹部、兎径部、大腿部以外の部分をさす。

※会陽、承扶、胞肓、秩辺、居髎、環跳が位置する。

- 大腿部：前面、後面、内側、外側
 - 膝：前面、後面、内側、外側
 - 下腿：前面、後面、内側、外側
 - 足：足背、足底、内側、外側
 - ・足関節：前面、内側、外側
 - ・足指
- ※下肢の経絡走行は、胃経は前外側、膀胱経は後（外）側、胆経は外側、脾経は内側、腎経は後内側、肝経は前内側を原則とするが、絶対的なものではない。

仙骨部

- 仙骨部：仙骨に位置する経穴をさす。
- ※会陰部：記述はされなかったが、長強と会陰が該当する。
- ※ボーダーライン上にあるポイントは上の部位に帰属する。たとえば、臍は上腹部に、殿溝は殿部に帰属する。

■ 将来計画

3日目には、今後の将来計画についての検討作業が行われた。その結果、以下のような手順で経穴部位標準化公式会議を行うこととなった。

会期 10月31日－11月2日（3日間）

会場 つくば国際コンベンションセンター

公式言語 英語

協議事項

1. 基本原則
2. 経穴位置
3. 経穴の図説
4. その他

■ 今後のスケジュール

会議の全参加者は、7月末までに崔氏（WP RO）より連絡される。

- ・TFTの結果を各国に送る（7月7日まで）
- ・各国で検討し、7月28日までにEメールで具

教授（韓国）に送る。同様に金教授に送る

- ・7日以内（8月4日）までに各国に送る。
- ・8月18日までに再検討し、崔氏に送り、編集したもの（2－3日）を黄教授（中国）に送り、8月25日から9月22日まで中国でネイティブスピーカーに確認をしてもらう。
- ・最終ドラフトは、1カ月以内に送付する。10月の第1週。
- ・参加者：CJK；4人（鍼灸および解剖学者）WFAS, ECMART, USA, UK, Austraria, Vetnum, Singarporn, モンゴリア, WHO, HQ；9カ国、20－21人（CJK以外は各国1名のみ）
- ・会議のスケジュールは、崔氏が作成する。
- ・オブザーバー：20人のアドバイザーとすれば、オブザーバーは10人。一応制限はなし。
- ・アドバイザーボードについて崔氏より提案があり、各国にファイルを送るので検討してほしいとのこと。また、単に経穴部位だけではなく、鍼の標準化等も検討する必要があるのではないかという意見があった。
- ・多くの国が一度に参加して行うことは困難であり、CJKの3カ国が中心になって活動する必要があるのではないかという意見があった。

■ 結びに変えて

長期間をかけての検討作業は、大詰めに迎えることとなった。中国、韓国は、威信をかけて本国での会議開催を企図していたが、世界の吹き溜まりの文化国（あらゆる情報を新たに発展して世界に発信する）である日本で世界会議が開催されることは非常に意義深いことと思われる。しかし、会議を円滑かつ成功裏に開催するためには、豊富な運営資金と事前の準備作業が不可欠である。第二次日本経穴委員会を構成する関係団体からの拠出金はもとより、関係団体、企業等からも、是非援助をお願いしたい。

また、中国と韓国では、国立の研究機関があり、また、次官クラスでの交流も10年以上にわたって行われている。今回の会議を契機として、日本においても厚生労働省をはじめ、公のバツ

クアッ体制をいかに構築するかが重要な課題であると思われる。会議は目前に迫ってはいるが、諸賢の知恵、人脈、金脈その他を結集して、会議の成功を期したいと考える。

中医薬食理論 **まんが漢方入門** がよくわかる

編著：周 春才 監訳：吉元昭治

A5判 290頁 定価1680円 (税込) 送料300円

楽しく読めて、漢方の精髓がよくわかる!

漢方薬(中薬)の理論は、長い間の実践の中で、薬になる羽毛鱗貝、根茎果実の性能やその応用のしかたなどが易経の陰陽五行学説をもとに体系化されたものだが、本書はそんな中薬の歴史をはじめ、その理論や応用法、四季によく見られる病と飲食の関係などが漫画でわかりやすく解説してある。難解な中薬理論(中医薬食理論)も漫画による簡明な説明でよくわかる。楽しく読めて、漢方の精髓に触れられる1冊だ!



フリーコール 0120-2161-02 医道の日本社 ご注文 FAX 046-865-2707